

4月22日O.A. テーマ「出産」

産んだらダメですか？

スタジオ出演 ◆ 空門勇魚（そらかど・いさな）…番組ディレクター。筋力がほとんどない
ナレーション ◆ 神戸浩（かんべ・ひろし）…俳優

はるな愛： “バリアフリー・バラエティ” 「バリバラ R」の時間です。パーソナリティーのはるな愛です。

よろしくピース！毎週金曜日夜 9 時、E テレで放送しています、障害者情報バラエティ「バリバラ」のラジオバージョンです。テレビでは紹介できなかった裏話、お得情報をプラスしてお伝えしていきたいと思います。それではさっそくまいりましょう。今回のテーマは「障害者の出産」。ということで気になる情報がたくさんあると思うんですけども、今日は番組ディレクターの空門勇魚さんと一緒にお送りしていきたいと思います。こんにちは。

空門 D：こんにちは。よろしくお願いします。

はるな愛：よろしくお願いします。空門さんは、車いすなんですね。

空門 D：そうなんです。電動車いすに乗っているんですけども、僕の障害っていうのは全身の筋力がですね、ほとんどないっていう。だから手も足もどこも力が入らないっていう、そういう障害なんです。

はるな愛：手はちょっと、こう動かしてますけども。

空門 D：そうですね。いま小刻みに動いてますけれども、これぐらいで。例えばバンザイすることとかできませんし。ここにコップ置いてますけども、これも片手では持てない。両手じゃないとつかめないとか。

はるな愛：そうなんだ。何か言うてください。私もちょっとお茶ね、こう持ったり。お手伝いできることが…。

空門 D：あら、いいんですか？はるなさんに甘えちゃって…。

はるな愛：甘えちゃって！しかもですね。空門さんは 28 歳で、いま子育てしてるんですよね？

空門 D：そうなんです。

はるな愛：ということは赤ちゃんが！

空門 D：生まれたんです。

はるな愛：おー！おめでとうございます！いつですか？

空門 D：去年の 6 月になるんですけども、娘が生まれまして。

はるな愛：じゃあまだ 10 か月ぐらい？

空門 D：そうですね。いまちょうど 10 か月ですね。

はるな愛：かわいい？

空門 D：かわいいですね～！！

はるな愛：顔つきが変わるってこのことですね。お父さんが娘のことをしゃべると、トロンとするっていうね。いかがですか？子育ては。

空門 D：すごく楽しくやらせていただいています。けども、うちの妻も車いすに乗っているんで、二人とも障害があるっていう夫婦なので、ちょっと大変だなんて感じる部分もあるのが正直な感想ですね。

今回同じようにですね障害のあるお父さん、お母さんに取材を行ったんですけども、やっぱり出産や子育てに関しては悩みを持っていらしてですね、番組アンケートという形もとらしてもらって、そういった声をたくさん寄せていただいたので、その中からいくつか紹介していきたいと思います。

はるな愛：分かりました。ではさっそく、まず1つ目、紹介していきたいと思います。

 福岡県北九州市 こうたんママさん（30） 視覚障害

子供を産みたいと思っていた時、夫の両親から、夫の職場に「子供は作らないほうがいい」という手紙が届きました。どういうつもりで、出産について反対しているのか、直接話し合いをしていないのでわかりませんが、快く感じていないようでした。

夫の両親は、遠くに暮らしていたので、それをいいことに、何の相談も話し合いもしませんでした。私自身が、話し合いをするのが怖かったし、夫から「両親は関係ない」と言われたので、言葉に甘えました。ただ、毎日のように泣き暮らしていました。

はるな愛：う～ん、なるほどね。その話、面と向かってかなり言いにくいことだと思いますけども。

空門 D：出産とか妊娠とかって本来喜ばしいことじゃないですか。それを反対されるって声が結構多かったんですよ。続いてのアンケートは私の方から紹介します。

 栃木県日光市 T・Tさん（40代女性） 視覚障害

妊娠初期のころ、子育て中の同僚に「あなたから子育てのことを聞かれたとき、大変さと楽しさを半分ずつ、うまく伝えたつもりだったけど、あなたには、その楽しさの方だけが伝わってしまったのかしら」と、嫌な言い方をされ、「あなたは、子育てが楽しいだけだと思って、妊娠したんでしょうけど、それでいいの?」と、言われているようで、ショックでした。

また、「あなたと同じように、目の見えない人で、子育てしている人っているんですか?」と聞かれ悔しくて嫌な思いをしました。

はるな愛：ちょっとね～。くやしい気持ちすごいわかりますね。

空門 D：結局「障害者だから」ということが理由で、自分の親とか他の兄弟とか、職場の方とか、周りの友達とか、そういった方からも「やめといた方がいいんじゃないの?」っていう風に反対された事例が・・・。

はるな愛：悲しいですね。もちろん大変なこともあると思うんですよ。この人が「大変さと楽しさを半分ずつうまく伝えたつもりですけど」というのは、たぶん普通のお子さんを産む妊婦さんでも大変さもうれしさもあるのと一緒にだと思えるんですよ。もちろんそれぞれの障害の度合いっていうんですか、そういうのも違うとは思いますが、でもみんな大変なものだしね。やっぱり喜んでもらいたい、人に。祝福受けたいって。

空門 D：最初は「おめでとう」って、やっぱり言ってほしいですね。

はるな愛：どうでした？ そのへんは空門さん。

空門 D：そうですね。うちの場合は面と向かって反対っていうのはなかったんですけども、「ちゃんと育てていけるあてはあんのんか」みたいなことは言われて。やっぱり、2 人とも障害があるってところで「ちゃんと産んで育てていけるのか」ってところは、もう事あるごとに不安を伝えられましたね。

はるな愛：周りからね。でも、やっぱり 2 人で一番よく考えて話し合ってるってことなのでね。なるほど。

実際に障害のある人たちは、周囲の反対をどのように乗り越えているのか、E テレの「バリバラ」に出演したご夫婦のエピソードを紹介していきたいと思います。

空門 D：久間（きゅうま）さんご夫婦という方なんですけれども、夫の久間崇司（たかし）さんは右半身まひ、妻の朝香さんは手足に障害があり、車いすで生活していらっしゃいます。そんな 2 人の出産にですね、朝香さんのお母さんが大反対したということで、ナレーションは俳優の神戸浩さんでおききください。



＜妻の母が大反対＞ 久間崇司さん…右足切断・右半身まひ、久間朝香さん…四肢まひ

ナレ）滋賀県大津市のアパートで暮らす久間さん。2 歳になる紬（つむぎ）ちゃんと 3 人暮らしだ。

紬：おいしい。おいしい。おいしい。

リハビリ施設で知り合い、交際が始まった 2 人。3 年前、朝香さんが妊娠。

待望の子どもに 2 人は喜んだ。

朝香：この人の子どもを産むしかないと思った。この人の遺伝子がほしかったから。

だって男前だし頭いいし。ふふふ。

ナレ）しかし、朝香さんのお母さんが出産に大反対したのだ。

母：2 人とも障害者でもありましたし、その子どもが受けるいろいろな差別とか精神的苦痛とかっていうことを考えたときに「子どもをこの世に産みだしてはいけないな」と思ったんですね。ペットを飼うのとは違いますので、まして人間の子どもの意思を持って生まれてくるわけですから。新たな命をこの世に送り出すということに対してはやっぱりノーと言わざるをえない状況でした。

朝香：親が障害者だからとかね、そんなんで不幸になるって決めつけないでくださいって感じでね。

ナレ）反対する母に「絶対に産む」と伝えた久間さん夫婦。すると、

母や親戚が連日のように家におしかけたり電話をかけたりして「おろしなさい」と迫った。

これ以上逆らっても無駄と思った朝香さんは、母に「おろします」と母にウソの承諾をした。

その一方、メールで「助けにきて」と作業所の支援者に訴えた。翌日、病院へ向かった母と朝香さん。

そこで待ち受けていたのは朝香さんを応援する医者と支援者たち。「出産は本人の意思が大切」と母親を説得した。さすがの母もようやくあきらめ、2 人は安心して出産を迎えられることになった。

はるな愛：よかったですね。自分の意思を貫き通すってね、結構大変だと思うんですけども。

朝香さんすごい通しましたね。でも毎日、電話とかメールで、親戚とかって、つらいと思うな。

空門 D：無事に元気な女の子を出産されまして、紬ちゃんという名前をつけられたんですけど。

はるな愛：「おいしい、おいしい」って言ってたね。かわいい。

空門 D：いま 2 歳になられてるんですけど、紬ちゃんは。ヘルパーさんの力をかりながら、ご夫婦で子育てを
していらっしやると。

はるな愛：ヘルパーさんもそうやって助けてくれるんですよね？

空門 D：そうですね。できないところに対しては介助が必要なので、そこはヘルパーの力をかりながら
子育てをしていっていると。

はるな愛：やっぱり生まれてくる子どもは、本当にそこに必要で意味があって、みんな教わることもあって、
「生まれてこない方がいい」という言葉っていうのは投げかけたらダメだと思うし、皆さんに理解
してもらって、協力してほしいですね。

空門 D：そうですね。



<バリバナ> 障害者のあるある話

「取り扱い注意」 精神障害のある夫婦 きっこさんととりあたまさん

待ちに待っていた妊娠。でも薬をやめたことで妻は不安に。

夫は自分が辛いときは、いつも一人になりたくなるので、なるべく妻を一人にしてあげることにした。

すると妻は「嫌われた」と思いこみ、ついには入院。夫が見舞いに行くと渡されたのは「私の取扱説明書」。

不安なときはずっとそばにいてギュッとだっこしてほしい。

夫がその場で妻を抱きしめたのは、言うまでもない。

「赤ちゃんとおしっこ」 脊髄損傷 T・Sさん

妊娠 5 カ月、お腹も大きくなってきた。困ったのはトイレ。

お腹を強く押さないとおしっこが出ないのだが、赤ちゃんが出てしまいそうで怖い。

でも弱く押すと少ししか出ない。そのため仕事中も 1 日 10 回だったトイレが 20 回、30 回に…。

1 日のうち 6 時間もトイレで過ごすことになり、心から「早く産まれてほしい」と願った。

はるな愛：なるほどね。赤ちゃんが入ってるから押せないもんね。たまに「赤ちゃんいるんでさすってください」
って言うけど、「どれぐらいの力でさすったらいいんだろう」って私も思っちゃうもんね。

空門 D：本人にしてみたらもっと大事に扱わないといけないと思うでしょうが。

はるな愛：お手洗い行くの大変な人はね。この「私の取扱説明書」いいですね。

「ギュッと抱きしめて」と言ったら旦那さんが抱きしめちゃうという。

空門 D：説明書見せた瞬間に、こうパツといったんでしょね。

はるな愛：ね！素敵！

空門 D：ちなみにきっこさんととりあたまさんなんですけども、4 月の 2 日に元気な男の子が生まれたという
ことで。

はるな愛：あら！おめでとうございます！よかったね～。

空門 D：やっぱり、ギュッって夫が抱きしめたからでしょう。

はるな愛：おめでとうございます。障害者のあるある話「バリバナ」。他にもたくさん寄せられております。
その中からいくつかご紹介していきたいと思います。

<バリバナ>

「産みの苦しみ」 脳性まひ T・Kさん

出産は大変なものだ！と覚悟を決め、産まれるのを待っていたら、突然家で破水。
夫の母に連れられ、トイレに行ったら、「もう産まれているよ」と言われ、びっくり。
下半身がマヒしているため、気づかないうちに、産まれていた。
一度は「産みの苦しみ」を経験してみたかった。

はるな愛：え～！そうなの！？

空門 D：ウソみたいな話ですけどね。

はるな愛：でも痛みがなくて出産できたらしい女性が多い中、「産みの苦しみを経験したい」というね、
ないものねだりな感じ？ 続いて男性の不妊に関するエピソードです。

<バリバナ>

「電気ショック」 頸髄損傷 T・Iさん

肩から下がまひしていて自力で射精できず、
体外受精のために、電気ショックを与えて精子を採取することに…。
血圧は1回のショックで200まで上がり、形容できない頭痛が走り、
しばらく痛みが止まらなかった。
その後も、体外受精のたびに何度も電気ショックを受け続けることに…。
2年後、ついに待望の子どもを授かった。男としての産みの苦しみを味わった。

はるな愛：なるほどね。こういう電気ショックを使って、あるんですかね？

空門 D：あるですよ。自分の射精する機能がない方とか弱い方はこうやって電気ショックを与えて、
お子さんをお作りになられるっていうのは、よくある話。この方みたいに頭痛くて死にそうだって方
もいらっしゃれば、ショック与えられても意外とあまり痛みを感じない方もいらっしゃるみたいで、
本当に個人差があるそうです。

はるな愛：でもそれだけして待望のお子さんを授かったということでね、おめでとうございます。
以上、「バリバナ」のコーナーでした。

はるな愛：はるな愛の「バリバラR」。今日は「障害者の出産」をテーマにお届けしております。

空門さんのところは妊娠中のトラブルや悩みってあったんですか？

空門D：たくさんありましたね。

はるな愛：へ～、例えば？

空門D：妻がどんどんお腹大きくなってくるじゃないですか。そうすると普通にしていとも動けないのに普段以上に動けなくなってくるんですよ。

はるな愛：車いすですよ？奥さんも。

空門D：そうです。それでお腹大きくなってきて本当に全然動けなくて寝たきりみたいな感じになったんですけども。そうすると「本当にちゃんと自分は産めるんだろうか」とか「こんな体の状態で出産した後本当に子育てできるんだろうか」みたいなところですよ、不安が。

はるな愛：初めには覚悟はしてたけど大きくなったらどんどん悩みとか不安が出てくるんだ。

空門D：はい。

はるな愛：それは大きくなってみないとわからないことでもありますもんね。

空門D：そうですね。

はるな愛：でもね、今はかわいいお子さんを出産されたということで。

ここでEテレの「バリバラ」に出演された和田公一（きみかず）さん、そして千珠子（ちづこ）さんご夫婦の出産エピソードを紹介します。お2人は精神障害がある方です。



<あいさつ作戦> 和田公一さん…統合失調症、和田千珠子さん…統合失調症

ナレ）横浜市に住む和田さん夫婦は統合失調症。

不安やストレスで意識が混乱してしまうことがあるが、薬を服用しながら地域で暮らしている。

2人は6年前、障害者のイベントで出会い、その2か月後に妊娠が判明。

ところが親や親族、周囲の人までが出産に反対。中絶するよう、2人に迫った。

千珠子：とにかくおろしなさいって言われ方をしたから、私に嫌がらせしてんのって感じになっちゃって。

周りで反対だったから、一人怒り狂ってたって感じで。

ナレ）怒りでストレスが増す一方、赤ちゃんのことを考え、薬をやめていた千珠子さん。

次第に精神状態が悪化していった。なぜこんなにも反対されるのか。

千珠子さんはふらっと街に出て、通りすがりの人に自分の境遇を話すようになっていった。

そしてこちらの八百屋さんのおばちゃんには、前を通るたびに話を聞いてもらった。

おばちゃん：くら～い感じでね、うつむいて、こうやって歩く人だったよ。

反対されたってことは言っていましたね、最初。

「でも頑張って産むんだ」っていうから「頑張って育てられるの？」って言ったら

「なんとか頑張る」って言っていましたよね。

ナレ）一方、公一さんは将来を考えるのが怖くなり、寝ることに逃げる、いわば「寝逃げ」という状態になっていた。

公一：奇想天外な行動をする彼女に対してついていけないで、とにかくこう寝て、寝たい、みたいな。

ナレ）そうした中、千珠子さんの状態がますます悪化。ついには精神科へ強制入院。

このままでは妻を失ってしまう。さらには赤ちゃんの命も失ってしまう。すべてを失って一人ぼっちになってしまうかもしれない。と思ったそのとき！公一さんは目を覚ました。

逃げていてはだめだ。妻と生まれてくる子どものために新たな一歩を踏み出すのだ。

公一：もうピーンと。ピーンと。ピーンとなって。シャキーンとこう、目からスパンと。

何かこう落ちたような感じで。

ナレ）さっそく行動開始。まずは、病院でのあいさつ作戦。

社会人としての当たり前のあいさつを頑張ることで、子育てもできるんだとアピールしたのだ。

さらに千珠子さんにも毎日会い、ラブレターを書き、一緒に頑張ろうと励まし続けた。

その結果、千珠子さんの症状は回復。無事、美珠（みたま）ちゃんが誕生した。

玉木：なんでまた、あいさつから始めようって思ったのかな？

公一：とにかくあいさつをしていって、こう「育てる気あるぜ！」みたいな。「おれは育てる気あるぜ！」みたいな。障害を持っている人間が社会の中で生きてく上で、第一歩としてはあいさつと、僕はゴミの分別だと思ってるんですよ。

はるな愛：「今週の名言、言うよね〜」。「**社会の中で生きる第一歩はあいさつとゴミの分別**」。

よかったですね。途中でみんなが、やめとけみたいな感じになっていくんとちゃうかなって思ってたけど。

空門 D：「いやだ。いやだ。いやだ。もう全部やだ〜」って言って、1回寝に入って、ふとんにくるまって。

はるな愛：「寝逃げ」っていうんですね。

空門 D：「寝逃げ」と本人、おっしゃってましたけども。

はるな愛：奥さんが強制入院させられて、お子さんもそっちに行っちゃって一人ぼっちになったから、そこで覚醒してそれで目覚めたのがあいさつ作戦。

空門 D：この発想が非常にユニークな。

はるな愛：本当そうです、あいさつ作戦。みんなにだからあいさつしたってことでしょ？

空門 D：そうみたいです。奥さんが入院していらっしゃった病院の看護師さんとかお医者さんとか、時には掃除のおばちゃんとかそういった方にまで、あいさつをしてまわっていたと。

はるな愛：でも旦那さんのやる気はすごい伝わったと思うしね。いいんじゃないかしら。

空門 D：「オレは育てる気あるぜ！」って言ってましたけど。

はるな愛：B ラップ系のね、感じ？いや社会人の人でも少なくなっていると思うけど、あいさつとゴミの分別。みんなに言えることだし、できて当たり前のことだけど、みんな忘れていたことをやった。それが伝わったのかしら。いや素晴らしい。ちょっと気になったんですけども、千珠子さんは赤ちゃんの影響を考えてね、お薬をやめた。これ妊娠したらやめないといけないんですかね、やっぱり。

空門 D : 「妊娠中に薬を飲んではいけないんじゃないか、服用してはいけないんじゃないか」って思っている方は多いんですけども。ちょっと取材をしてみたんですけども、妊娠中や授乳中の薬について情報提供している「妊娠と薬情報センター」という国の機関があるんですけども、こちらの情報によりますと、最近症状をうまくコントロールできて、副作用の少ない薬の研究っていうのが進んでいて、服用しながら出産ができるようになってきているんですね。

はるな愛 : あ～よかった。

空門 D : で、ご本人の病状にあわせてお薬をやめるとかお薬を変えるとか、飲むけども量を減らすとか、いろいろな選択をしていきながら、妊娠期間を過ごしていくと。

はるな愛 : だから勝手に薬をやめるとかじゃなくて、ちゃんと相談した方がいいんですね。

空門 D : そうですね。母体の心の状態とか体の状態とか、そっちの安定の方が赤ちゃんにとっては影響を大きく左右するという風に言われているので、薬の服用が必要な場合については服用を続けるってことが大切ですし、一番いいのは妊娠する前に、お子さん考えだしたときから専門のお医者さんに相談しながら納得した上で妊娠とか出産っていうのを決めていくっていうのが一番大事なんじゃないかと。

はるな愛 : 全部ひっくるめて出産の準備をしっかりとするという事で、まずは医師と相談するってことが大切ってことですね。

空門 D : はい。

はるな愛 : 分かりました。ありがとうございます。「バリバラ R」終わりの時間が迫ってきましたね。早いわ～。
最後に障害のあるパパ・ママからの声を紹介していきたいと思います。



兵庫県川西市 T・Mさん（30代女性） 聴覚障害

私は、中学生の時から結婚願望が強く、子育て経験のある聞こえない親たちから、色々と聞いていたので、自分の子供を妊娠した時も、出産や子育てを楽しみにしていました。一方、同じ聴覚障害を持つ夫は、聞こえなくても子育てできるのかとか、聞こえないからできないマイナス面ばかり気にし、消極的な考え方をしていたので、私はイライラしていました。妊娠中は不安定になりやすいのに余計に不安にさせてどうするの？ 前向きに考えて！と、夫に怒ってばかりでした。夫が、もっと聞こえない親の子育てについて色々な情報を得ていれば、消極的な考え方をしていなかったのではないかと思います。

空門 D : やっぱり自分の周りで、同じ障害のある方で、子ども産んで育てていらっしゃる方の先輩に話聞きたいって思うじゃないですか。でも本当にいないんですよ、周りにそういう先輩が。育児雑誌とかインターネットとか調べてもほとんど障害者の子育てとか出産に関する事って載ってないし。

はるな愛 : 何でなんだろうね。

空門 D : 障害者の子育てサークルとか、そういう障害者の出産を支援していく団体というのは、まだまだ少ないっていうのが現状ですね。

はるな愛：障害者の方のための妊婦のサークルとかね。やっていった方がいいですね。今日なんかお話聞いて、皆さん参考になったんじゃないでしょうかね。さて皆さんの出産や子育ての悩みとか、こんな工夫をしているとか、またこの番組で体験談をどんどん紹介していきたいと思いますので寄せてください。よろしくお願いします。さあいよいよ、もうエンディングですけども今日は本当にどうもありがとうございました。またぜひ来てください。来てくださってというか、ディレクターさんですからね。

空門 D：いつもいます、ここに。

はるな愛：番組作り、よろしくお願いします。

さて皆さん、はるな愛の「バリバラ R」いかがでしたか？

感想やメッセージお待ちしております。また番組では皆さんの障害にまつわるエピソードや障害のあるある話「バリバナ」を募集しております。あて先は、

郵便番号 540-8501、NHK大阪放送局「バリバラ」の係です。

メールでは番組ホームページから送っていただけます。アドレスは nhk.jp/baribara です。

はるな愛の「バリバラ R」。今日は「障害者の出産」をテーマにお送りしてきました。

また来週。バイバーイ。